【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第２部門第４区分
【発行日】令和7年1月7日(2025.1.7)

【国際公開番号】WO2024/162391
【出願番号】特願2024-534423(P2024-534423)
【国際特許分類】
Ｂ３２Ｂ 27/32(2006.01)
Ｂ３２Ｂ 9/00(2006.01)
Ｂ６５Ｄ 65/40(2006.01)
【ＦＩ】
Ｂ３２Ｂ 27/32 Ｚ
Ｂ３２Ｂ 9/00 Ａ
Ｂ６５Ｄ 65/40 Ｄ

【手続補正書】
【提出日】令和6年6月7日(2024.6.7)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
第１基材層とアンカーコート層と無機バリア層とをこの順序で含み、
前記第１基材層はポリオレフィンを含み、
前記アンカーコート層は、断面の複合弾性率が３．５乃至６．５ＧＰａの範囲内にあり、且つ、厚さが０．４乃至３．０μｍの範囲内にある積層体を含む包装材料。
【請求項２】
前記第１基材層は前記アンカーコート層に接したスキン層とコア層とを含む層構造を有し、
前記アンカーコート層は断面の硬さが２００ＭＰａ以上３５０ＭＰａ以下の範囲内であり、前記スキン層は断面の硬さが１５０ＭＰａ以下である請求項１に記載の包装材料。
【請求項３】
前記スキン層は断面の硬さが２０ＭＰａ以上である請求項２に記載の包装材料。
【請求項４】
前記スキン層の厚さが０．２乃至１．８μｍの範囲内である請求項２に記載の包装材料。
【請求項５】
前記アンカーコート層はポリウレタン樹脂と硬化剤を含有するアンカーコート剤の硬化膜であり、前記アンカーコート剤中の前記ポリウレタン樹脂と前記硬化剤の固形分質量比［硬化剤／ポリウレタン樹脂］は、３０／１００乃至５０／１００の範囲内である請求項１に記載の包装材料。
【請求項６】
前記無機バリア層は、酸化ケイ素又は酸化アルミニウムを含有する請求項１に記載の包装材料。
【請求項７】
前記積層体の前記第１基材層側の面に第１接着層を介して形成されたシーラント層と、
前記積層体の前記無機バリア層側の面に第２接着層を介して形成された第２基材層と
を備える請求項１に記載の包装材料。

【請求項８】
レトルトパウチ用である請求項１に記載の包装材料。
【請求項９】
請求項１乃至８の何れか１項に記載の包装材料を含む包装体。
【請求項１０】
請求項９に記載の包装体と、これに収容された内容物とを含む包装物品。
【請求項１１】
第１基材層とアンカーコート層と無機バリア層とをこの順序で含み、
前記第１基材層はポリオレフィンを含み、
前記アンカーコート層は、断面の複合弾性率が３．５乃至６．５ＧＰａの範囲内にあり、且つ、厚さが０．４乃至３．０μｍの範囲内にあり、
前記第１基材層は前記アンカーコート層に接したスキン層とコア層とを含む層構造を有し、
前記アンカーコート層は断面の硬さが２００ＭＰａ以上３５０ＭＰａ以下の範囲内であり、前記スキン層は断面の硬さが１５０ＭＰａ以下である積層体。
【請求項１２】
第１基材層とアンカーコート層と無機バリア層とをこの順序で含み、
前記第１基材層はポリオレフィンを含み、
前記アンカーコート層は、ポリウレタン樹脂と硬化剤を含有するアンカーコート剤の硬化膜であり、前記アンカーコート剤中の前記ポリウレタン樹脂と前記硬化剤の固形分質量比［硬化剤／ポリウレタン樹脂］は、３０／１００乃至５０／１００の範囲内にあり、断面の複合弾性率が３．５乃至６．５ＧＰａの範囲内にあり、且つ、厚さが０．４乃至３．０μｍの範囲内にある積層体。